

横浜市立金沢小学校

平成27年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

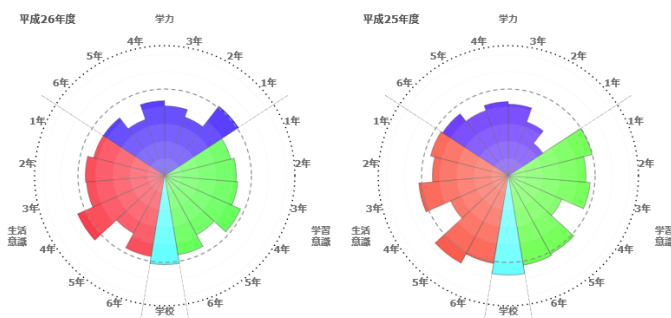
- (1) 授業改善、授業力向上の取組を組織的に進めている。
- (2) 経験の浅い教員も含め、基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。
- (3) 意欲はあるが、その学年までの基礎的・基本的な既習事項が確実に身に付いていない子がいる。
- (4) 規則正しい生活習慣、学習習慣が身に付いていない子も見られる。
- (5) 地域ボランティアを活用した学習を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。

2 昨年度から3年間の方向（中期学校経営方針）

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 授業力向上を進めながら、学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高め、考える力の定着を図ります。また、自主的に学習に取り組む姿勢を育てています。
- スキルタイムやスクールボランティアにより、基礎基本の定着に努めています。
- 年間を見通した計画を立てて、学習内容と評価規準を明確にしなが、個に応じた指導をしています。
- 市学力学習状況調査の標準化得点が2ポイント向上しています。

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要

学年によってばらつきはあるものの、全体的な学力や学習・生活意識は横浜市の平均より劣っている。

「勉強は好きですか」の問いには7～8割の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と答えているが、自分の考えを授業中に発表できる子は横浜市平均より少ない。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：どの学年においても、書くことに関する領域が弱い傾向にある。
- 算数科：全体的に劣る数値となっているが、学年により観点ごとの傾向には違いがある。
- 社会科：全体的には平均値に近いが、知識・理解の観点において課題が見られる。
- 理科：全般的には平均的な力をもっているが、学年により観点ごとの傾向には違いがある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体として数年続けてやや横浜市の平均より低い状況が見られる。学習意識調査からみると、学習が好きと感じている子どもの割合は平均的であるが、理解や定着に結びついていない面が見られる。当該学年での学習内容の理解や定着を図るため、より分かりやすい授業展開や子ども達の学習意欲を高める工夫をしていく必要がある。自分の考えをまとめて説明するなどの表現する活動や、学習したことを日常生活に活用する場面を位置付けながら、学習したことを活用し、定着を図っていきたい。また、朝のスキルタイムなどで読書を取り入れたり、家庭での学習習慣を確立させたりしていくような働きかけも行っていきたい。

4 平成27年度 目標と具体的方策

平成27年度 目標

確かな指導技術に支えられた、基礎基本や自ら学び・考える力の充実

(1) 学校組織としての共通の取組

○言語活動の充実

授業の中に言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を必ず一つ以上位置付け、自分の考えを表現、交流できる授業を行う。

○教材研究の充実

予備実験や板書計画、課題づくりなど、学年での研究を密に行う。

○研修・研究会の時間の確保と内容の充実

年間一人1回の研究授業の実施、金小メンターチームにおける若手の育成。

(2) 学年・教科等としての取組

○言語活動の充実

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する。

2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。
- 大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合う。

3 学年

- 相手を意識し、相手に伝わるような言葉で自分の思いを表せるよう、話し合いの活動を充実させる。
- 作文指導を継続的に行うことで、語彙を増やし、表現の力を付けていけるようにする。

4 学年

- 算数・理科等で説明する文章、記録、報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 自分の考えを持ち、相手に伝わるような言葉で話すようにする。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に行う。

5 学年

- 総合的な学習等で自分の考えをもち、相手に伝えるなど、表現活動を大切にしている。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習と振り返りを行う。

6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにしていく。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを行う。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。
- 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。